

「きさ」小中一貫教育公開研究会

10月19日(木)に「きさ」小中一貫教育公開研究会を実施しました。今年度は、3年目でもあり、全小中学校で授業公開を行いました。午前中は小学校の公開授業、午後は中学校の公開授業と全体会を実施しました。地域公開も兼ね、地域・保護者の方にもたくさん参観して頂き、小中一貫教育の取組を知っていただく良い機会となりました。



吉舎中学校1年 英語



吉舎中学校2年 数学



吉舎中学校3年 理科

○アンケートより

研究会終了後に提出していただいたアンケートより、多くの貴重な意見をいただき、これからの取組の方向性が見えてきたように思います。

- 小学校は少人数で個を大切に、伸び伸びとした授業で、アットホーム感がありよかったです。わかりやすい授業でした。
- 中学校は協同学習で共に伸びる中に一人一人の自主的参加も見られ、やる気の起る楽しい授業でした。
- 「考える場面」「発言する場面」のメリハリがきちんとつけられていて、課題に取り組まれている姿勢が素晴らしいと思いました。
- どの生徒も、笑顔があり表情が明るく、クラス全体が和やかで、とてもよい雰囲気だった。一人一人に声をかけていて、生徒が安心している。
- 保護者も参加でき、学校の事もよくわかり、勉強になりました。
- 校舎の周り、草木の手入れ、校舎内の清掃とも整備されていて、教育環境が整っていると思いました。

た。

- 授業で置き去りにされている児童・生徒が各教室で見られました。説明力・理解力をもっと力を入れていただきたい。

●杉田郁代先生講演より

①自学力の定義

- ・{児童・生徒自らが、自己の夢の実現のために、主体的に知識・技能を習得・活用し、能動的に、調べ、考え、様々な課題を解決していく能力} 定義をしっかりと理解し取り組むことが大切である。

②授業評価より

- ・説明するためのツール(算数用語を使って説明すること。算数用語を語り合う活動などで使い、しっかりと積み重ねていく事)
- ・掲示物は、生活場면을学習教材にしており、身近なもので、子ども達のものになっている。
- ・特別支援の視点を持つことが大切。
- ・誰もがリーダーになる時代である。
- ・つながる土壌づくりの大切さ。
- ・学級経営が安定していないと、学力は安定しない。
- ・教師の表情は大切。一対一の丁寧な対応で、児童生徒は安心する。
- ・プロセス評価をしっかりと行う。最終のゴールを見せていく。

③授業デザインの考え方、新しい知識のネットワークをつくる。

- ・「知識獲得技能」言葉やイメージを覚えて、捜査すること。
 - ・「宣言的知識」言葉やイメージについての知識
- ⇒導入では、学習者に関心があることを示して注意を惹く。
これまでの経験と結び付けさせる：既有知識とリンクさせる。
情報を整理して提示する。学ぶ内容の整理整頓。
新しい知識を定着させる。(精密化リハーサル)
何度も繰り返し覚える。(維持リハーサル)

- *繰り返し6回くらい声に出して言う。
“新しい情報”は、その人が持つ経験とリンクさせること。

次回の小中合同研修会では今年度のまとめを行います。各部で来年度につなげられるように早めにまとめをしておいてください。

